

令和6年3月16日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
令和6年度 第3回

素直に話を聞く

おはようございます。開会挨拶で神藤評議員会議長がご自身の体験を交えて、人の話は素直な気持ちで聞くと良いと話をされました。

東京フォーラムに畑中仙人と呼ばれる会員さんがおられます。畑中さんは中村天風先生から直接教わったお弟子さんですから、私の話から天風先生のことを思い出すのだそうです。先週の東京フォーラムで、畑中仙人のために天風先生の話をしました。それが神藤さんの話とつながりますので、北関東フォーラムでもご紹介しましょう。

中村天風先生は若い頃、満州で軍事探偵として活動しました。「人斬り天風」と言われ、本人の述懐では、人を殺すことを何とも思わなかったし、いつでも死ぬ覚悟は出来ていたそうです。実際、敵に捕まって処刑される状況の時、普通であれば死にたくないともがくのに、「私の心臓はここだ。ここを狙って撃ちなさい」と平然と言ったので、処刑官がサインを欲しがったという逸話があります。

処刑寸前に味方に助けられ日本に帰国しますが、今度は肺に大きな穴が開いて、生死にかかわる業病にとりつかれます。日本国内では治せる医者も見つからず、アメリカに渡り、それからヨーロッパに行き、世界を回って歩いたけれども、結果として助けてくれる人はいませんでした。

もう日本に帰って死ぬだけだと覚悟を決めて、マルセイユから乗った日本に向かう船の中で、インドのヨガの聖人カリアップパ師に出会います。その出会いというのが、とても印象的です。食堂でかなり年齢のお爺さん（カリアップパ師）が飛んでいるハエが不時着すると、ハエに向かって指を指す。すると、ハエがピタッと動かなくなる。それを後にいる従者が長い箸でつまんで捨てていました。天風先生が見つめていると、そのお爺さんが英語で「こっちへ来い」と呼ぶので、ヒョロヒョロと立ち上がって傍に行ったそうです。「お前、右の胸に大きな病をもっているな。私はお前の病を治す方法を知っている。私に付いて来るかい」と言うのです。天風先生は無意識に「サーテンリー（かしこまりました）」と答えていたそうです。

それからインドのヒマラヤが見えるような山の中に連れて行かれ、修行を始めますが、

カリアップ師は病を治す方法など何も教えてくれません。或る日、天風先生は意を決して、いつ私の病を治す方法を教えてくれるのですかと尋ねたら、カリアップ師が「お前の頭の中には余計なものがいっぱい詰まっている。頭の中にあるものを全部捨てて空っぽにしてください」と答えました。

天風先生ははっと気が付いたそうです。時間をかけて自分の頭の中にあるものを全部捨て、（つまり神藤さんの言われた素直な気持ちになったわけです）翌日、カリアップ師の前に行って頭を下げると、カリアップ師は「ようやく私の話を素直に聞ける心持ちになったようだな」と言われ、天風先生をゴウゴウと流れる瀑布に連れて行き、その前の大きな岩に上って座禅をするよう命じます。

耳もつんざくような滝の傍で修行を続けるうちに、天風先生は爆音の中でも虫の音や鳥の声、風に擦りあう葉っぱの音が聞こえるようになります。カリアップ師に報告すると、「地の声が聞こえたなら、天の声も聴こえるだろう」と言われ、更に修行を続けるけれども天の声は聞こえない。再び師から「天の声とは、しじま（静寂）だ」と教えてもらいますが、どうしても腑に落ちませんでした。

もう自分には悟れないと諦め、岩から降りて草むらで大の字になって天を見上げていると、雲の中に自分の心がすーっと吸い込まれていき、とても良い気持ちになった。その瞬間、これだ！と閃いたといいます。すぐにカリアップ師のもとに行くと、天風先生の顔を見た師から「お前、天の声が聞こえたな。もう、お前の病は無くなっている」と言われ、身体の奥深くからエネルギーが湧いてきて、天地の氣と合体している状態になっています。俺は死なない！病は治っていると実感したのだそうです。

カリアップ師から付いて来いと言われ、天風先生は咄嗟に「かしこまりました」と答えていた。この時は無心だったのですね。それまでの天風先生だったら、どこに行くのか？あなたは誰か？どうやって私の病を見抜いたのか？どうやって治すのか？・・・と疑問をぶつけていたはずです。頭の中が空っぽで素直な状態だったからこそ、カリアップ師に付いて行けた。インドに着いて、頭の中がまた疑問だらけ、理屈だけになっていたのを、カリアップ師の言葉ではっと気が付いた。頭の中を空っぽにすることで、素直にカリアップ師の教えを聞くことが出来たのです。

結果として天風先生は病を克服し、日本に帰ってから実業家として活躍していましたが、途中で自らの使命に気づき、自分の資産や生活を投げうって講演活動を始めたわけです。

神藤評議員会議長の「素直な心持ちで」という話から、天風先生の話に致しました。我々も、素直な心持ちでということが必要だと思います。

私は人様の話を聞いて、素直な気持ちで無意識のうちに動いたことが何度かあります。私が師匠と呼ばせて戴いた木内信胤先生との出会いもそうです。木内信胤先生の講演が群馬であるから行きなさいと或る方から勧められ、出かけて行って先生のお話を聞いた。聞き終わった瞬間、フラフラと立って演壇の前に行き「先生、弟子にして下さい」と言っていました。木内先生の弟子にして戴いて数年経ってから、先生が「群馬で若い友達が出来たよ」と言っているのと、ご子息の木内孝さんから聞いて、とても嬉しくなったことを思い出しました。

全てそこに至るものは、人の話を聞く時は素直な心持ちで空っぽにして聞く、これが肝心です。

悟るには・・・

悟りということで、レジメに木内信胤先生の言葉を取り上げていますのでご覧下さい。

⑤ 色々な知識を沢山集めても駄目で、魂につきささる様な知識を必要程度持たねばならない。

（『木内信胤語録』昭和62年6月11日 88歳）

こういう言葉は、悟りというものを体験している方でなければ言えませんね。「魂に突き刺さるような知識」とは、言葉で覚えるものではありません。体で認識しているもの、体験が必要であるとお考え下さい。

学問には、縦の学問と横の学問があると申し上げています。縦の学問とは、自分が一生涯を通じて何をせねばならないのか、どういう使命を持ってこの世に生まれたのか・・・そのことに関する知識を集める学問です。横の学問は、新聞やメディアが伝えるような知識、何処で何があったという事実を教えてくれる知識を集める学問です。横の学問は、はっと気づくためのきっかけを作ってくれるので、やはり必要です。

例えば、ここ数日は、春闘で大企業がどんどん給料をアップしているというニュースが流れています。岸田さんは大企業にばかりに目を向けて、給料を上げろと言い続けているし、そのための法案も提出しています。大企業に集中して恩恵がいくようにすれば、そのおぼれが川下である中小企業にも行くであろうと考えてやっている・・・というような表現が、特に総理大臣になってからは多かったです。それが途中で、中小企業にも恩恵が流れるだろうと考えたのは間違いだったと明確に発言しているにも関わらず、中小企業に直接恩恵が行くようなことはやっていません。岸田さんは言行不一致の輩であると思っ

ています。ですから木内信胤先生の言われる「色々な知識を沢山集めても駄目」というのは、岸田

さんそのものです。総理大臣になった当初は「私は聞く力を持っている」と言っていました。聞いたことを実行する力は持っていません。横の知識をいくら増やしても、実行には至りません。「魂に突き刺さるような知識」、すなわち政治家としての肚構えができて、政治家としての本物の信念を持っていれば、実行まで行くわけです。

ただし、実行に至るには行動のスイッチを押さなければいけません。それには、どこかで悟っていなければならない。悟ったという体験を持つことが、信念に繋がります。

木内先生が「魂に突き刺さるような知識を持たねばならない」と言われたのは、どこかで天の声を聞きなさい。天の声が聞こえなければ、地の声で良いから聞きなさい。地の声が分からなければ、素晴らしいと思う言葉・素晴らしいと思う人を見つけて学びなさい。そうすれば行動に至るスイッチが身につく・・・ということです。

その時に必要なものは、諦めるという心持ちだと私は思っています。体の中からエネルギーが湧き起こるためには、どこかで全部放り投げて、一切合切諦めるという心持ちにならないといけない。私はそう信じています。

なぜなら、そういう体験を私は何度かしています。どうにも打つ手がない、どうにもならないとつくづく思って、畳の上で大の字になって「どうにでもなれ」とすべてを諦めた時です。自分の言葉で言うと、心の留め金がカチンと外れたような実感がありました。その瞬間、体中から、わーっとエネルギーが噴きあがって、頭の中が高速回転し次から次にやるべきこと・やらねばならないこと・やりたいことが噴出してきました。それを一気に実行していったら解決することが出来ました。様々な形でそういう体験をしています。ですからある程度コツは覚えました。

木内信胤先生のこの言葉は私の体認してきたものにグサッと突き刺さったので、今回、悟りということでご紹介しました。

「知足」の淵源

ではレジュメに戻ります。前回も同じテーマ「知足の淵源」についてお話したので、さらっと参ります。

私は58歳でシムックスの社長業をバトンタッチし、60歳からは社会に恩返しをする年代だと教わっていたことを実践しようと、中斎塾フォーラムをスタートさせました。その際、何を恩返しすれば良いか色々考えた結果、「足るを知る」という考え方を広げるべきだと行き着いたわけです。

足るを知るという考え方は、仏典にあります。お釈迦さまの「少欲知足」という考え方

が基本の一つです。残念ながら、儒教には「足るを知る」という言葉はありません。もう一つは、道教にあります。道教は老子です。一説では、孔子は老子にもものを教わったという話が残っていますが、私はあまり信じられないと思っています。

お釈迦様の言葉は非常に分かりにくい。そこで「少欲知足」を説明するのに、源信の書いた『往生要集』が非常に分かりやすく書かれています。源信は平安時代中期の天台宗のお坊さんです。

④ 足ることを知らば貧といえども富と名づくべし、財ありとも欲多ければこれを貧と名づく。もし財業に豊かなれば、もろもろの苦を増すこと、竜の首多きもの酸毒を増すが如し。まさに美味は毒薬の如しと観じて、智慧の水をもって灑いで浄からしむべし。この身を存たんがために食すべしといえども、色味を食りて驕慢を長ふことなかれ。もろもろの欲染においてまさに厭を生じ、勤めて無上涅槃の道を求むべし。

(源信『往生要集』)

美味しいものを食べ過ぎれば体の毒になる。食べ過ぎはよくない。

財産を持ち過ぎると、色々な厄介事が増える。

食べなければ生きてられないが、食べ過ぎはいけない。

天風先生がアメリカの大金持ちロックフェラーと話をした時のこと、もうお金は要らないでしょうと天風先生が聞かれると、まだまだお金は欲しいと答えたそうです。同じく大金持ちのカーネギーは胃ガンを患って、治してくれた者に財産の半分をやると言ったそうです。天風先生曰く、なぜ全財産をやると言わないのかねえ。足ることを知っていれば、もう少しましなものになったろうに…と解釈しています。

老子の文章も、同じことを言っています。

② 多く蔵すれば必ず厚く亡う、足るを知れば辱しめられず、止まるを知れば殆うからず、以て長久なる可し。

(『老子』)

沢山財宝を持つと、しっぺ返しが酷い。強欲は貪欲に繋がり、貪欲は身を滅ぼす。これはよくない。

今は文明が大きな転換期を迎えているわけですから、大きな目で見れば、日本という国が一度滅びる寸前までいく。世界も滅びる寸前までいく。物質文明が完全に終わるとは思いませんが、今まで物で溢れていたのが、これからは知恵（A Iではありません）に替わ

る。そういう大きな文化・文明の転換期の中で、「足るを知る」という思想が日本を救い、究極的には世界を救うと私は固く信じています。

それを強く感じて、中斎塾フォーラムをスタートさせました。ですから「足るを知る」を中心に置きました。それを分かって戴くためのテキストとして、論語を選んだわけです。論語には「足るを知る」という言葉は書かれていませんが、詰めていけば「足るを知る」考え方の入り口には間違いなく立てる。そう思って論語をお話しています。

③ 禍は足るを知らざるより大なるは莫く、咎は得んと欲するより大なるは莫し。故に足るを知るの足るは、つねに足る。

（『老子』）

「禍」は、戦争と捉えてお話します。

今、地球上でどれだけの戦いがあるでしょうか。人間とは大変困った動物です。ロシアがウクライナに対して戦争を仕掛け、（最初は軍事侵攻という言い方でしたが、今はメディアも戦争という言葉を使っています）、ウクライナも受けて立ち、現在にきています。これはもう戦争そのものと捉えています。

プーチンさんが、もうここら辺でいい と思ったら戦争は終わりです。プーチンさんの理屈は自己防衛と言っていますが、NATOから攻められると思っているわけです。私の推測で申し上げますと、こういうことです。

プーチンさんは、自分たちは一人ぼっちだと思っている。でも、力がある。ロシアに対して、アメリカがNATOという仲間を作り寄って集って潰そうとしている。おまけに何の餌で釣られたか分からないが、ウクライナがNATO側に引き寄せられている。このままではロシアの重要な子分であるウクライナを連れていかれる。ウクライナだけでなく大事な子分を次々に攫われて、最終的にロシアは潰される。そんなことは嫌だ。怖い・・・そういう恐怖感にかられ、向こう行っちゃいかんとウクライナに軍事侵攻したわけです。戦争を仕掛けて完全に我が物としたい、というのが今回のロシア・ウクライナ戦争だと思います。

ロシアが恐怖心かられた根っこは、NATOがどんどん仲間作りをしているからです。このままでは自分の部下をみな持っていかれてしまうという恐怖心に駆られて、戦争を仕掛けたわけでしょう。

尚且つ、プーチンさんがそういう動きに出たのは、アメリカが弱体化したからです。アメリカが内紛を起こして、このまま放っておいてもアメリカはリーダーシップを発揮できないとプーチンさんは読んだ。子供同士の喧嘩でも、相手の大将が弱みを見せたら、ここ

ぞとばかりに殴りかかりますね。バイデンさんは年寄りで動きが鈍いし、弱い。おまけにトランプさんと対立している。今ならアメリカは手を出せないはずだ・・・これはチャンスだとばかり、ロシア・ウクライナ戦争は始まったわけです。

これは国と国の戦いですが、「知足」の視点で見れば、プーチンさんがウクライナを自分の勢力下に引き戻したいという欲を捨てれば良いのです。アメリカも、ロシアにちょっかいを出さないというメッセージ出す。お互いが「足るを知る」でやれば、戦争まではいかなかったらと思うています。

ハマスとイスラエルの紛争も、どちらも「足るを知る」という考え方でいけば良かったものを、今や完全なジェノサイド（民族浄化）です。お互い、この世に存在してはならない民族だと思っているから、赤ん坊まで殺しているわけでしょう。常識でいけば、赤ん坊・子供を殺すなどあり得ません。イスラエルもハマスも、相手の民族をこの世から消し去ることが世界のためだと信じてジェノサイドを始めたと感じます。

ハマスはテロ集団と言われていますが、イスラエルに弱い者いじめをされて、どうにもならない状況でした。中国で見れば、チベットみたいなものです。中国はチベットに対して、言葉や風俗、結婚相手に至るまで、中国に同化させる政策をとっています。平和裏にということですが、チベットは従わざるを得ない状況だから、国民は大変な思いをして中国に従っているのです。但し、中国には大中華思想なるものがありますから、大中華思想に基づいてチベットや他の民族の同化政策を進めている。イスラエルがやっていることは同化政策ではなく、民族そのものを消し去ろうとするものです。それには赤ん坊を殺すのが早いから、前代未聞の殺戮をしているのです。

私を感じたのは、ハマスはテロ集団ではなくて、ハマス自治政府です。ガザ地区の自治権を持った一つの政府になっている。ハマス側は平和裏に均衡政策でいこうとしてきたけれども、どんどん虐待されて、反抗せざるを得ないところまで追い詰められてしまった。日本が油を絶たれて、真珠湾攻撃をせざるを得なかった時の状況と似ています。我々はこれだけ力を持っているのだから、また戦争なんか嫌だ！ ということでイスラエルに対して攻撃を仕掛けた。ネズミが袋小路に追い詰められて牙をむいたというのが、ハマスのイスラエル攻撃だったのではなかと、私は今は感じています。

もうこれ以上戦争を仕掛けないでくれ！ というメッセージを出したがために、イスラエル側にチャンスを与えてしまった。イスラエルにすれば、向こうが手を出したのだから我々は自衛手段として叩いてやる・・・と、倍返しどころではない100倍返しをしている最中です。ですからロシア・ウクライナ戦争とイスラエル・ハマス紛争は中身が全然違います。

そういう状況にあって、日本は一体何をやっているのかと思います。日本がイギリスやイタリアと組んで、次期戦闘機を作って輸出しようではないかと、おかしな事をやり出しました。但し紛争中の地域には送らないという発表もしていますが、日本も阿呆な道をどんどん進めているから、やはり奈落の底に向かっているという感じが致します。

④ 足ることを知らば貧といえども富と名づくべし、財ありとも欲多ければこれを貧と名づく。もし財業に豊かなれば、もろもろの苦を増すこと、竜の首多きもの酸毒を増すが如し。まさに美味は毒薬の如しと観じて、智慧の水をもって瀧いで浄からしむべし。この身を存たんがために食すべしといえども、色味を食りて驕慢を長ふことなかれ。もろもろの欲染においてまさに厭を生じ、勤めて無上涅槃の道を求むべし。

(源信『往生要集』)

「足ることを知らば貧といえども富と名づくべし」・・・少ない欲で生きていけば「足るを知る」ということになる。

「無上涅槃の道を求むべし」・・・足るを知って強欲をなくす、そうすれば無上涅槃の道に行ける、悟れると捉えればよいでしょう。仏教では、「少欲知足」は悟りの中でも最高の境地に至る考え方であると強調しています。「足るを知る」というものの考え方を身に付けられたら素晴らしいとお考え下さい。

ただ、人間から欲を取ると人間ではなくなります。天風先生は、釈迦もキリストもマホメットも欲を捨てろと言うが、欲を捨てることは出来ないと言っています。更に、欲には正しい欲と、正しくない欲がある。釈迦もキリストもマホメットも、全部の欲を捨てろと説いてしまったために、間違っただけものが蔓延ることになっている。正しい欲か、正しくない欲かを見極める目を持つと言っています。

恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。3月も半ばを過ぎましたから、今年に入ってからでお聞きします。

○今年に入ってから、良い日がずっと続いている方

○嘘はつかなかったし、嘘をつかれなかった方

○有難うと言う事が多かったし、有難うと言われる事も多かった方

有難うと言われなかったら、意識的に言ってもらえるような動きをすればよろしいです

ね。

○身体の手入りを今年によくやっているという方

私は外反母趾で足のお医者さんに行く都度、先生から手術を勧められるのです。先日、診察室に入るなり、足でグーチョキパーをして見せたところ、先生が「深澤さんは足の手入りを良くやっていますね。運動に勝る治療なし」とおっしゃる。「薬を飲みなさい」でも「手術をしなさい」でもなく、自分で自分の体のケアをするのが最高の治療だと言われたので、嬉しくなりました。

歳を重ねると、朝起きた時は体中がこわばっています。特に足の手入れをすると、とても痛いのです。しかし、こわばって固まってしまったら痛くないのだから、痛みを感じるということは生きているからなのだ！と、先生の言葉を聞いてはっと閃きました。これは、冒頭にお話しした木内信胤先生の言われた「魂に突き刺さるような知識」で、体験です。

○今年自分磨きをよくやっていると思う方

○眠る直前、明日のことを考えるというより、感じるかどうか、お聞きします。

ご参考までに私は最近、眠る直前に「明日は良かったな。・・・その通り」という言葉が出るようになりました。今までは「明日はあれとこれをする。・・・全部終わって良かった良かった」と思って寝ていました。そういう段階が過ぎたら、あれとこれとは思わずに「明日はよかったな・・・その通り」と浮かんで、すーと眠るようになりました。

令和6年を考える

では、テーマに入ります。令和6年の干支は甲辰です。今年は、曲がりくねるけれども前にずっと進んでいく、そういう年回りです。

1、健康 2、縦の学び 3、横の知識

健康というテーマを今年を追いかけますが、それには縦の学びと横の知識が必要です。縦の学びは健康長寿でいこうと腹に置く。横の知識はどんどん入れて、捨てること。入れたら全部出す。出していれば、消えて自分自身のものになる。自分の心の中に入ってくるとお考え下さい。

縦の学びは、自分自身如何にいくべきかというテーマですから、意識しなくても自分自身のやるべきことは何か生まれてくるはずで。

冒頭にお話しした天風先生は、キャリアアップ師に初めて会った時、「お前は何をしに、この世に生まれたのか」と聞かれ、答えられなかったそうです。「何をしに、この世に生まれたのか」とは、縦の学びをやっているかという事です。自分は何のためにこの世に生まれたのか、それを考えない方は多分いないと思いますが、途中で忘れるのです。ですから

常に問い続けるのが良ろしいでしょう。

4、嘘があふれる世の中

現在、ロシアが出してくるものは嘘、中国が出してくるものは嘘、北朝鮮が出してくるものは嘘・・・という状況に皆が何となく気がつき始めています。嘘が溢れる世の中だからこそ、嘘か嘘でないかを見極める眼力を持ちましょう。

心の中に何かわだかまりがあると、目が落ち着かずに動きます。相對している時、相手の目の玉がキョロキョロと動いているようなら、嘘だと思って良いと私は思っています。中国の華春瑩さんが報道官の頃、記者会見で眼が泳いでいる映像を記憶している方もおられるでしょう。中国は戦狼外交と言って、脅しつける、不審の種を周りにばらまくわけです。目を据えている時は狂信的なものになるけども、心の中がまだ固まっていない時は、目がキョロキョロします。習近平さんは「大中華思想に基づいて、台湾は我が国の領土である」と言い続けていますが、当初はやはり目が落ち着かず動いていました。それが確信犯に変わった時は目を据えているから、ちょっと下目になっています。

河井継之助は、「人物を見抜くには眸子（瞳）を見よ」と言っています。常に嘘をつく人間は信用できませんね。そういう人物は、素晴らしい人生を送れるかどうかは甚だ疑問だと思っています。

5、我が信条

我が信条とは、自分が実行するときの判断基準です。何かやろうとする時、自分自身の背中を押してくれる、或いは前から引っ張ってくれるような言葉、そういうものの考え方は、ですから、自分は一生かけてこういうことをやる、世の中のためになることをやろう・・・と信念を持って進んでいくには、我が信条と言えるような言葉（「座右の銘」でもよい）を自分で発見する。それを何度も繰り返し声に出し、或いは何度も見ます。そして無意識のうちに何かを決めていけば、その無意識には信条が自分の心の中にしっかりと定位置を持って収まっています。

ですから信条というものは、人間にとって必要なものだと思います。皆さんも、我が信条と言えるものをお持ちくださるようお願いして、本日の講話を終了させていただきます。有難うございました。